子どもと放送

No.46
2013.2

■事務局/名古屋市立楠西幼稚園
〒462-0061　名古屋市北区会所町８２-１
ＴＥＬ（０５２）９０２-２２５０

■発行者/愛知県幼児視聴覚教育研究会
会長　鈴木　照美

●第50回東海北陸地方放送教育研究大会　報告
第44回愛知県放送教育特別研究会　報告
●第44回愛知県幼児視聴覚教育研究大会　報告
●実践研究「子どもの聴く力」

名古屋市のりくら保育園　5歳児

第５０回　東海北陸地方放送教育研究大会
第４４回　愛知県放送教育研究会

未来を拓く学びの場を創造しよう

日時：平成２４年８月１７日（金）　　会場：ウインクあいち

■講演「明るく、楽しく、そしてあきらめない生き方」

講師　辻井　いつ子　氏

ご長男、伸行氏（ピアニスト）の子育てにまつわるエピソードを交えながらの講演でした。

子どもの可能性を引き出し、子どもが自立していけるようにするために、子どもを否定しないこと、子どもの姿や行動に感動してほめることが大切であると教えていただきました。

■部会研究「感じる心を育てる」

提案１　愛知県　あさひおっきい保育園　加藤　多美氏

聴く力　～『お話でてこい』を聴く活動を通して～

- 日常的に、自然の中で五感をフル回転させ、見えないものを心で感じてきた子どもたちは、ラジカセからの声にも心を寄せる姿となった。
- 聴く力を育むためには、まず大人が子どもの声に耳を傾け、心を寄せ、安心できる存在となることが大切であると感じた。

提案２　三重県　亀山市立関幼稚園　小川　敦子氏

身近な植物や生き物に興味をもち、自ら触れ、考え、生き生きと活動する幼児の育成を目指す

- タンポポの花やクローバー、ツマグロヒョウモンなど身近にある自然に触れる直接体験から、自然への親しみや興味を深めていくようにした。
- テレビ視聴後、実際の経験と一致し、知識や興味が深まった。また、友だちとの共感を通しての仲間作りにもつながった。

助言者

愛知県　明照保育園　中島　美奈子氏
三重県　亀山市教育委員会　渡辺　忍氏

- 子どもは五感を使って全身で味わう経験をすることが大切である。教育のねらいを持って、視聴を保育に取り入れることは有効である。
- 視聴は、環境の工夫と併せて安心・信頼できる人間関係の中で行われることが望ましい。

第４４回愛知県幼児視聴覚教育研究大会

感じる心と表現する力を育てる
～教師の援助のあり方を考える～

日時：平成24年11月2日（金）
会場：名古屋市立第二幼稚園、千種文化小劇場（ちくさ座）

■公開保育、研究発表

（3歳児）

ちょうの飼育、観察をする中で、教師や友だちと感じた「同じ思い」に心地よさを感じていくようになってきている。友だちと同じような物を身につけて、共通のイメージを持って遊べるように環境構成をしたり、遊びを展開したり工夫して、教師や友だちとかかわる楽しさをより感じていけるような保育を実践している。
視聴覚教材では、「いないいないばぁっ！『わーお！』」の曲で一緒に楽しんだ。

（4歳児）

教師が、幼児の思いを感じとり遊びに必要な道具や教材に工夫を凝らすことで、イメージを共有し、遊びを十分楽しむことができ、友だちとのつながりが広がっている。季節の自然物を用いた遊びの材料を準備し、子どもたちがしたいことをできるように環境構成がされている。視聴覚教材では、「つくってあそぼ」を活用していた。

（5歳児）

製作したものを使ったごっこ遊びで、自分の考えたことと友だちの考えたことを重ね、イメージを合わせて遊びをすすめていけるように支える教師の援助の実践があった。友だちと力を合わせることで充実感をもつことができる経験ができるような環境構成がされている。視聴覚教材では、「お話ててこい」「ピタゴラスイッチ」「しぜんとあそぼ」を活用していた。視聴覚機器の一つである実物投影機（みえるモン）を新たに取り入れた実践も紹介された。

（指導講評）
名古屋芸術大学　伊藤冴子氏

一人一人の育ちを大切にした保育がされている。幼児の自発的な活動と保育者の指導的な活動の２つの保育形態をうまく取り入れながら、幼児の主体的な活動を大切に考えた環境構成がなされている。その環境のなかに、視聴覚教材が生かされており、研究の成果がでている。

■てい談「子どもと共に創る園生活」

保育者養成研究会　主宰　　小笠原　圭氏

名古屋市教育委員会　指導主事　　吉田　とき枝氏

名古屋市立大幸幼稚園長　　西川　由美子氏

小笠原先生

吉田先生

西川先生

- 子どもの主体性と保育者の意図性の関係
- 幼児期にふさわしい生活の展開
- 遊びを通しての総合的な指導
- 一人一人の発達の特性に応じた援助
- 指導計画

以上のテーマについて、実際の保育の場面の中での事例（子どもや教師の姿）をもとにてい談がすすめられた。

■閉会式

事務局長より

「４４年間毎年開催してきた『愛知県幼児視聴覚教育研究大会』は２４年度を以って一旦休止となります。２５年度以降は形を変えて研修会などを開催する予定ですので、ご期待いただきますとともに、ご参加をお願いしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。
本日は大変多くの先生方にご参加いただきありがとうございました。」
との挨拶があり、閉会した。

実践研究　【テーマ】子どもの聴く力

テレビなどの映像は、ほとんどの家庭においてとても身近な存在です。現代の子どもたちは、視覚的な情報や刺激があふれている環境のなかで暮らしているといえます。その一方で、私達大人は子ども達に、「人の話をよく聴こう」としばしば呼びかけます。子ども達は、このような環境や大人からの関わりの中で、見る力や聴く力をどのように生活に生かしているのでしょうか。今回、子ども達の「聴く力～聴覚～」について、様々な園の保育実践を通して調べてみようと思いました。

《実践事例Ａ》

～耳からの刺激が、子ども達の中に新鮮な体験として～

★7月31日、４・５歳児各クラスにて、「お話でてこい　～おむすびころりん～」を聴取した。

・　２クラスともとても静かに聴き入っていた。初めての経験で、話の内容をどのようにイメージできたのかは分からないが、ラジオ聴取ということ自体が、新鮮だった様子。

・　お話の中の効果音や、エンディングの“ドンドコドン…”のところが特に楽しかったようだ。

《実践事例Ｂ》

★３～５歳児の異年齢児クラスで６・７月に４回聴取する。

・　初回は、ラジカセそのものに興味・関心が向き、内容を十分に聴くというよりむしろ、ラジカセから聴こえてくる音に反応していた。回を重ねていく中で、子どもたちの興味は聴こえてくる声や音ではなく、内容に興味を示し始めた。仲間と一緒に聴き、仲間の振り返りを聴くことで、内容に思いを馳せてそれらを共有するまでに至った。

・　耳を澄ませて、おはなしを聴くという活動は、生の声での語りかけと視覚で捉える絵本や紙芝居、人形劇などとは異なり、目で見えないものをイメージしながら心で感じるという比較的高度な活動であった。

・　日常的に、自然の中へ出かけ五感をフル回転させ、見えないものを心で感じてきた子どもたちだからこそ、ラジカセからの声にも心を寄せる姿も現れた。しかし、やはり保育士が目の前で語り、話すことと比較すると、ラジカセからおはなしを聴くという活動は３～５歳児の子どもたちには難しいところもあった。また、異年齢クラスで取り組む場合は、可能な限り３歳児の力に合わせた題材を選ぶことが大切である。

《実践事例Ｃ》

５歳児　　～一緒に聞くとたのしいね！～

・　４歳児の時からボランティアの方の「おはなし会」に親しむ。映像などの視覚情報がない素話は、静かでゆったりとした場で、興味関心や認知力等の個人差を考慮して友だちと聴く場所を決めるなど、“聴く環境”を整えることで、徐々に聴くおもしろさを感じるようになった。

・　５歳児になり、「おはなしの会」や普段からの絵本の読み聞かせに加えてラジオ聴取の「お話でてこい」に取り組んだ。目の前に読み手のいる「おはなし会」とは異なり、聴く側の状況に関係ないラジオからの一方向の発信ということで、戸惑いが予想されたものの、子ども達は予想外に、聴く楽しさを感じたり、ラジオ聴取の時間を楽しみにしたりしていた。

【まとめ】

・　子どもにとって経験の少ないラジオ聴取体験は、題材や環境を工夫することで、徐々に子どもにとって親しめる活動となっていった。園では友だちと一緒に聞くことで、他の活動と同様に共感する楽しさが味わえ、想像力が育まれていくと思われた。

・　この取り組みを通して、私たちの聴く力はどうなのだろうと考えさせられた。‘人の話をきちんと聴いてほしい’‘聴く力を育んでほしい’と願う私たち大人は、どの程度、人の話に耳を傾け、心で感じているのかということを。毎日の生活において、子どもたちの「ねえ、ねえ！」という声を知らず知らずの内に聞き流してしまっていたことがあったと振り返り反省した。子どもたちに求める前に、まず、大人はどうなのかという極当たり前な事柄に気づかされた取り組みであった。子どもたちのどんな声にも耳を傾け、心を寄せていくことで子どもたちにとって大人が安心できる存在になり、後に子どもたち自身が聴く力を育むことになると考えたい。

知らないって、ワクワク。Eテレ

ＮＨＫでは乳幼児の関心をひきつけ、遊びをひろげ、学びにつながる番組を制作しています。

ぜひご覧ください。

www.nhk.or.jp/kids/kyoiku

NHK for School

ブログ

ＮＨＫの学校向けサービスのポータルサイトです。
トップページから様々なコンテンツにアクセスできます。

www.nhk.or.jp/school/

特集番組やイベントなど、学校むけサービスに関連する情報をお知らせします。また、番組を利用した授業のリポート、教育事情を評するコラム、番組出演者へのインタビューなど、さまざまな読み物も掲載します。

ケータイ

携帯電話でも、学校放送番組の情報が見られます。直近の学校放送番組の内容や、学校放送番組以外の、教育的な内容の「おすすめ番組」などをご案内します。また、NHK for Schoolブログも一部のカテゴリーをのぞき、携帯電話でお読みいただけます。

アクセスは「メニュー⇒TV⇒NHK⇒50音順⇒NHK for School」

メールマガジン

NHK ネットクラブ

原則毎週金曜日に発行しています。間近に放送を予定している番組の案内など、視聴に役立つ情報を直接お届けします。（メールマガジンを受け取るには、NHKネットクラブへの会員登録が必要です。）

「NHKネットクラブ」
（ＰＣ）https://pid.nhk.or.jp/pid01/
（携帯）メニュー⇒TV⇒NHK⇒50音順⇒NHKネットクラブ

編集後記

「子ども子育て関連三法」の成立により平成27年度より「子ども・子育て支援新制度」が実施されます。

どのような形になるのかは未だはっきりしませんが、次代を担う子どもたちの明るい未来の為に、できる限りの環境を作っていけたらと思っています。

連絡先
NHK 名古屋放送局事業部内
愛知県幼児視聴覚教育研究会　事務局
〒461-8725 名古屋市東区東桜1-3-3
TEL 052-952-7070 FAX 052-952-7036